

ヒント

いろいろな深海の生き物をあざやかに描いてくれましたね(\*´▽`) ミズクラゲの模様など細かい書き込みがあって、深海を大好きなことが伝わってきます。今度は生き物たちの大きさの違いも意識してみよう!

イラスト

おやつ時の会話 やきこ

焼き芋って

「焼き芋」

子 「焼き芋ってどうしてこんなに甘いんだろう？」

母 「ゆっくり時間をかけて焼くと甘くなるんだって」

子 「へー！じゃあ焼き鳥もゆっくり焼くと甘くなるのかな？」

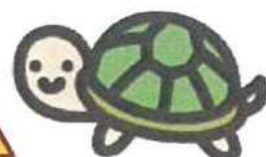
母 「んー。どうなんだろう??」

焼き鳥もゆっくり焼いたら・・・甘くなるかもしれませぬ(笑)

【神田】

行ってみ隊 見ってみ隊!

巨大すっぽん出現!!



昨年12月15日、大井5丁目にある滝王子稲荷神社に人だかりが！犬でも落ちたのかと思いきや、掻い掘り(かいぼり)の様子をテレビ撮影していたのでした。年明けの1月15日に放映されたのでご覧になった方も多いと思います。今回は当日の様子を交えながら、池のエピソードに迫ります。

掻い掘りとは、池や沼の水をくみ出して泥をさらい、魚などの生物を獲り、天日に干すことで、水質改善や外来生物駆除のために各地で行われています。

滝王子稲荷神社には池のほか、ご神木の樹齢250〜300年のタブの木、富士塚があります。鹿島神社傘下でお稲荷さん、権現さん、水神さんが祀られ、80人程の滝王子稲荷講の方が、清掃やお供えなど管理を行っています。



当日は、ビニールシートを張った大きな水槽を設置し、ポンプ車で水を抜きました。むき出しになった池は普

段カメやコイがのどかに泳ぐ水面からは想像のつかない深さでした。わずかですが、岩場から湧水が出ており、中央の岩場は、実は木のやぐらに乗っていたことが判明。池の主との噂の40センチ程の巨大スッポンをはじめ、カメ、コイ、珍しい生き物のカワアナゴも住んでいました。

水を入れ替えた後、外来種のミドリガメは生態系維持のため別の施設の池にお引越ししました。



実はこの掻い掘りは、32年前にも行われたそうです。その頃の話も滝王子稲荷講でもある滝王子町会長の田会長にうかがいました。

「当時はシヨベルカーで泥をすくい出した。広場もあったからね。消防水でもあったことから、消防の人も協力していた。かつては豊かな湧き水に満たされていた。70年前は子どもたちが泳いでいたそう。安全のために柵を作ったからは、掃除もしにくくなったし、マンションが建つたびに水量も減って、今は一部ろ過しながら水をまわしているんだ。」



稲荷講の当番だった大場さんにお社に保存されている当時の写真を見せて頂きました。「子ども頃は、木がたくさんあった。富士塚の岩は富士山の溶岩なんだよ。池にはコイやえびがに(ザリガニ)、ミジンコがたくさんいて、よく釣りをしたよ。向かいに駄菓子屋があって、イカをえびがにのえさにするんだ。その頃は低い手すりだけだったので、身を乗り出して落っこちたやつもいたな。」

江戸時代の頃から稲荷講の方々に守り続けられ、地域の方や子どもたちに親しまれてきた滝王子稲荷。

取り戻した生態系と生き物たちの住みよい環境を守ってほしいですね。そしてこれからの季節、暖かな日には甲羅干ししている池の主に出会えるかもしれませんよ。